

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成26年11月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4693900039
法人名	株式会社CARE&SONS
事業所名	グループホーム よかよかん
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町虎居1553番地2 (電話) 0996-53-3099
自己評価作成日	平成26年8月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、援助の実践をします。ここでいう援助とは、「苦しみを和らげ、軽くしなくすること」をいいます。その人が、暮らしの主人公として、暮らし続けていくことができるよう援助し、理念を意識しQOL(生活の質・人生の質)の向上を目指しています。

よかよかんには、「塀」や「時計」はありません。過去、現在、将来の時間の流れを、様々な障がいや環境などによって遮られることなく、人としての可能性を援助していく事ができる環境への配慮です。建物は、光や風や音や匂いなど五感へのアプローチが自然とできる設計をしています。

併設する事業所(小規模多機能ホーム・グループホーム)とは、朝と夕に各ユニット一人ずつ集まりミーティングをします。内容は、その日の課題(気づき)について協議したり、利用者様の状態を共有します。全職員が「ひとり」の利用者様にとっての人的な環境という意識を持つ訓練としても実践しています。夜間は、0時と4時に連絡を取り合い、何かあった場合の備えとして、職員間で連携がとれるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームはさつま町の市街地よりやや離れた住宅地に小規模多機能ホームと隣接して建てられている。広い敷地やウッドデッキでは、天候にもよるが自由に散歩でき、お茶や食事・会話・休息など、利用者が個々のペースでゆったりと過ごせる環境づくりに十分な配慮が感じられる。

○開設1年余りのホームであるが、地域との交流は活発であり、公民会に加入して地域の花見や運動会・サロン等には積極的に参加している。踊りや太鼓・詩吟等のボランティアの受入れとともに、ホームでの季節の行事には地域の子どもの参加もあり利用者の楽しみになっている。日常的には散歩や買い物の際に地域の方々と親しく挨拶や会話を交わすなど地域との協働関係づくりに努めている。

○運営推進会議にもご家族を始めとして多くの委員の参加を得ており、活発な意見交換のもとで多くの助言や提案がなされ、管理者や職員は連携して業務改善や利用者へのサービス向上に反映できるように取り組んでいる。

○管理者自身が職員との対話を大切にしており、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めてコミュニケーションを密にしている。日々のミーティングでもケアに関する話し合いは活発に行われ、業務改善や利用者へのサービスに具体的に反映させるように様々な努力や工夫を重ねている。

○管理者と職員は連携して利用者の思いや意見、ご家族の希望や提案を日頃のケアを通じてじっくりと聞き取り、ミーティングや連絡帳・利用者個々の「私のよかよかん日記」などで共有・検討して、利用者の自由な暮らしを援助している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	①仕事に入る時、理念を読んでいる②自分の目標を理念に基づきホワイトボードに書いている③毎日のミーティング時は、理念に基づき事例を検討している④退勤時は、振り返りをしている	併設の小規模多機能ホームと共通の理念を掲げ、職員は個々に目標も設定して、利用者の暮らしのペースを尊重した援助の実践を目指して日々取り組んでいる。朝夕のミーティング時には具体的な事例に基づき応対を検討し、退勤時には日々のケアを振り返り、個々の利用者に合った暮らしの実現に努力を重ねている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①西町公民会に入っており、地域の運動会やサロンに参加している②施設での敬老会などに参加している③近所の方や地域の方が野菜や料理のお裾分けをしたり、されたりしている。	公民会に加入し、地域の花見や運動会・サロン等には積極的に参加している。踊りや太鼓・詩吟等のボランティアの受入れとともに、スイカわりやソーメン流し・十五夜等の季節の行事には、地域の子どもたちの参加もあり利用者の楽しみになっている。日常的には散歩や買い物の際に地域の方々と挨拶や会話を交わし、野菜や米のお裾分けなどもありふれあいの機会が多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	①毎日のミーティングで支援の振り返りを行っている②認知症サポーター養成講座において、講師として参加もしている③運営推進会議の中で「認知症について」というテーマをとりあげ理解を深めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①2ヶ月に1回行っており、利用状況、活動報告、今後の活動予定を報告している②利用者、家族、各関係機関（行政、消防、警察、包括など）民生委員区長などに意見を聞いている。	会議は併設の小規模多機能ホームと合同で実施し、利用者や家族、地域住民・民生委員・行政や地域包括支援センター・駐在所・消防署の職員等の出席を得ている。ホームの現況報告や行事・問題点等について活発な意見交換が行われ、委員からは運営や行事・勉強会等について、毎回助言や提案もあり、職員はこれらの情報を共有して日々「援助の実践」の向上に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	①運営推進会議では、役場職員や包括職員に参加して頂いている②連絡会を通して取り組みを伝えており、互いに情報を交換し関係性を築いている。	行政や包括支援センターの職員には毎回の運営推進会議に出席して多くの意見や助言を頂いている。また、依頼を受けて認知症サポーターの養成研修等の講師を務めたり、介護保険運営委員会への参加などで意見や情報の交換を行い、より良い協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	①ミーティングを通して身体拘束について研修を行っている②理念の理解を深め、「拘束をできない」人づくりを日々意識している③玄関には、センサー等の設置はなく、施錠についても夜間以外はしていない。	日中は居室や玄関の施錠は行わず、職員の見守りのもとで併設の小規模多機能ホームと自由に行き来できる。言葉による拘束の排除を含む身体拘束については、勉強会も行われ、日々のミーティングでも繰り返し議論がなされて理解を深め、安全確保や自由な暮らしを援助するための工夫に取り組んでいる。近所の方々とは日頃の散歩中の挨拶や会話により、見守りや声かけをしてもらえるような関係が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①ミーティングを通して虐待防止法について学んでいる②虐待がおこらないように、環境への配慮をしている③気づいた事などは話し合いをしている④地域包括支援センターや地域と連携を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	①権利擁護について学ぶ機会として、ミーティングと事例検討会でおこなっている②意思決定などにかんしては、理念の「自律」を意識している③地域で困難事例がある場合は包括へ相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	①事前に利用者・家族の不安や疑問点を聞いている②契約書、重要事項説明書を用い、書面を通して確認し理解・納得を図っている③不明な点等が、ない場合は後で、気になった時に連絡を頂けるよう話をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	①「私のよかよかん日誌」を閲覧して頂き、意見や要望を聞いたしている②FAXや連絡帳を通じ意見や要望を聞いている③要望や意見は、職員で共有できるように連絡帳に記載し全員が確認している④ミーティングで報告し、対応策を検討している。	利用者の思いや意見を会話や表情の見守りで把握に努め、個々に思いを聞き取る工夫も行っている。ご家族とは来訪時の会話や運営推進会議等でお話をお聞きして、これらの情報は「私のよかよかん日記」や「職員間連絡帳」に記録して、職員・ご家族で共有している。必要な対応はミーティング等で検討し、本人や家族にも適切に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	①朝・夕のミーティングにて、話をする時間がある。②日勤や夜勤帯の状態を現場に確認に来るので話す機会はある。③その他に、呼び止められて話をする機会がある④常に現場にいる。	管理者自身が職員との対話を大切にしており、出勤時の声かけや夜勤者との会話、食事の際の会話など、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。日々のミーティングでも援助に関する話し合いは活発に行われ、業務改善や利用者へのサービスに具体的に反映させるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	①就業規則に関しては、社会保険労務士が現場状況の確認に毎月来ている。②出勤時は必ず現場に入り職員の働く姿を確認し話を聞いている。③話ができる状況にある。④悩み事など一緒に考え行動してくれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>①資格取得の推進をしている。 ②法人外での研修も、他施設での研修を開設後に全スタッフ対象で行っている。③法人内での研修というよりかは、毎日のミーティングで事例検討など大事にしている。④勉強会もある</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>①開設前後には、町内の施設や町外の施設などへの研修をした ②その他のにも、町外施設へ研修へ行き、状況の確認や相談等をしている③町内で行われる研修にも参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①来所あるいは自宅、医療機関に出向き、事前の状況を把握する②本人・家族の不安や要望を十分聞いている③本人が、暮らし方やサービスの内容について決めることができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①家族の不安や困りごと、苦しみを聞く②援助や対応の方法について一緒に考えることで関係作りをしている③利用された状況を記録するだけでなく、直接（家族へ）話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①「その時」の状況を判断し、サービスの提案をしている②本人が決めることができるようにしている③他の関係機関とも連携をとり対応している④本人の話をしっかり聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者」＝「本人」と共に過ごし支え合う関係では、「仕事」に追われ「時間」を意識すると一方的になってしまうがち。私達は、「その人」＝「本人」へ意識を向けるよう気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①自宅での介護で抱える不安や失敗など話を聴く②これからの、自宅での生活を共に考えられるように気をつける③色んな判断を迫られる場所には、できるだけ同行している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①本人のなじみの美容院や店に行っている②医療機関の継続支援をしている（かかりつけ医）③本人の続けてきたリハビリなど継続支援④面会の自由。（面会の制限がなければ）	従来からの医療機関の受診やリハビリの受診を始めとして、本人が希望する馴染みの美容院や商店での買い物・地域の行事等への同行に努めている。また、ご家族との外食や外泊の援助の他、併設の小規模多機能ホーム利用の馴染みの方々との交流や、来訪される家族や友人ともゆっくり過ごせるように適切に援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①調理や洗濯たたみ、配膳など生活の中で自然にかかわり合い互いが支える関係性ができている②外出の機会も計画的に行っている③行事も計画的に行っている④誕生日を祝う。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①契約の終了に至るまでの経過を大事にしている（内容に理解）②契約終了時には、いつでも連絡を頂けるよう話をしている③契約終了後も、電話をしたり、手紙を送ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	①事前の状況を把握する②本人・家族の不安や要望を十分聞いている③本人が、暮らし方やサービスの内容について決めることが出来るようにしている。	利用開始時の本人や家族からの聞き取りや、日常の行動や表情・会話から思いや意向を把握するように努めている。日々のミーティングやケース会議、また、詳しく記録した「私のよかよかん日記」で情報の共有を図り、家族とも相談しながら利用者本位の「援助の実践」となるように努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①家族の不安や困りごと、苦しみを聴く②援助や対応の方法について一緒に考えることで関係作りをしている③利用された状況を記録するだけでなく、直接（家族へ）話を聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①「その時」の状況を判断し、サービスの提案をしている ②本人が決めることが出来るように援助している③他の関係機関とも連携をとり対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「利用者」＝「本人」と共に過ごし支え合う関係では、「仕事」に追われ「時間」を意識すると一方的になってしまいがち。私達は、「その人」＝「本人」へ意識を向けるよう気をつけている。	介護計画は、利用者や家族等の思いや意見を十分に聞いて、利用者についての気づきや観察結果などを記録してある「私のよかよかん日記」や職員との意見交換等も反映させて作成している。また、看護師が通院には同行して主治医との意見交換も適切に行われ計画に反映されている。援助の経過も詳しく記録されており、それを基に計画の見直し修正が適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①自宅での介護で抱える不安や失敗など話を聞く②これからの、自宅での生活を共に考えられるように気をつける③色々な判断を迫られる場所には、できるだけ同行している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①近所の知り合い宅へ会いに行ったりしている②本人のなじみの美容院や店に行っている③急な外出への対応をしている④何が現場であった時には、小規模を含め3ユニットで取り組む		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①調理や洗濯たたみ、配膳など生活の中で自然にかかわり合い互いが支える関係性ができている②行事など計画的に行っている③外出が自由にできる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①契約の終了に至るまでの経過を大事にしている（内容に理解）②契約終了時には、いつでも連絡を頂けるよう話をしている③契約終了後も、電話をしたり、訪問したりとしている。	利用者個々の利用開始前の受診経過は十分把握されており、本人・家族が希望する医療機関を受診できるように援助している。受診は看護師が同行し、ご家族一緒の場合も多く、医師や家族との意見交換は十分に行われている。また、受診の記録は経過記録も兼ねた「私のよかよかん日記」に記載し、一目でわかるように工夫され、医師の意見がケアプランにも適切に反映されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①必ず毎日、看護師が出勤している②相談や適切な受診や看護が受けられるよう支援している③医療の面に関しては、ミーティング時、注意点や病状の説明を行い情報の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時は、サマリーを作成し情報提供をしている②病院の相談員や医療連携室とは、日頃から電話のやりとりや、利用者の情報提供を行っている③病状の確認は看護師で対応し、状態の把握に努めている④退院前には、本人へ会いに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①本人、家族の意向を聴きいている（契約の際）②必要に応じて話し合い行っていく方針である③「みとり」の実績があり、職員も多く関わりをもっている④医療機関との連絡体制など日頃から確認をしている。	重度化や看取りに対する指針を定め、様々な変化の都度本人やご家族に説明し、その意向を可能な限り大切にしている。看取りの実績があり、必要な対応はケアプランにも反映してご家族の同意を得て、その後も医師やご家族と繰り返し話し合い、ホームとして様々な状況に可能な限り対応できる体制を築いている。マニュアルも整備して職員には関連する研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①人工蘇生、AEDの使い方の講習を実践している②利用者の急変時の対応について主治医に指示をもらっている③主治医の指示を職員間で共有している④連絡体制の確保をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>①避難訓練を年2回実施している ②運営推進会議で避難場所の確認など行った③さつま町の協力施設に加盟している④災害に備え、消防署への相談など行っている。</p>	<p>消防署の協力を得て年2回は併設の小規模多機能ホームと共に実施している。さつま町の福祉施設の協議会にも加盟し合同の研修にも参加、また、災害に備えて消防署との意見交換並びに運営推進会議での災害対応関連の話し合いも行っている。関連するマニュアルの整備や研修も実施され、スプリンクラーや自動通報装置等の設置や食料や飲料水の備蓄もなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①出勤時には、理念を声にだして読んでいる②事例検討を朝と夕のミーティングで行っている③就職の際には、敬語を使うよう指導を受けている。	日常の援助に際して、利用者の誇りやプライバシー確保に配慮した声かけや対応を行うように、朝夕のミーティングを中心に繰り返し確認して実践に努めている。マニュアルの整備や接遇やプライバシーに関する研修も行われ、居室の保護とともに各種の個人記録も適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①理念に基づき、本人の話を聞いている②自分で決めて頂けるように支援している③決める事が難しい場合は、提案をし確認をさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①本人のその日の利用の目的を確認している②「したいこと」や「やりたいこと」が言いやすい雰囲気づくりをしている③ミーティングで話し合い、情報の共有をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	①毎日の服選びができるよう対応している②気兼ねなく化粧ができる空間作りに努めている③馴染みの美容院などが継続できるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①旬の食材を見ながら、利用者と共にメニューを決めている②能力に応じ、食材を切る、味見をする、盛り付け、片付けなど行っている③食事を一緒に、同じ物を食べている。	野菜の下ごしらえや盛り付け・後片付けなど、利用者の能力に応じて参加して頂き、旬の食材を活用しながら利用者の好みを献立に反映させて、職員と利用者が楽しく食事できるように工夫している。季節の行事食や誕生会の特別食・弁当持参の外出、庭やテラスでのお茶会や食事など、食への楽しみに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①食事摂取量のチェックを行っている②飲み物もお茶や水だけでなく嗜好を聞き応対している③嚥下困難がある方の場合、介助具や方法など全体で確認をしている④時間を分けての応対		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①食後に声をかけ歯磨きや義歯洗浄を行っている②自力で口腔ケアができない方には声かけ後に介助を行っている③口元や口臭などに気をつけている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	①排泄用具に関しては、「今」使用されているものについて話を聞く②状態によっては、排泄用具の変更や介助方法の見直しを行う③排泄の記録としてはチェックがあり記入している。	利用者の排泄状況は、看護師を中心に本人や家族から丁寧にお聞きしている。職員は連携して日々見守り、個人の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように、排泄用具や支援方法の変更に努めている。排泄チェック表の活用や主治医にも必要に応じて相談しながら、誘導なども考え、工夫して適切に援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①身体の状態の把握として、以前の情報や本人からの話などを聞く②状態によっては主治医への相談をしている③排便のチェック票の記入をしている④水分量や運動量の確認をしてし、現状説明や提案をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	①入浴の時間割はない②入浴は事前に話を聞き、時間の調整など行っている③本人の話を聞く大事な時間として意識している④基本的に1:1の対応	原則として毎日入浴可能であり、利用者の健康状態や体調を看護師と共に観察に努め、安全面には十分配慮して本人の好みや習慣に沿って入浴が楽しめるように援助している。ケアに際してはゆっくりと話を交わすなどの対応にも配慮し、ミーティング等でも利用者本位の援助を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①室温や温度、照明など環境を整えている②起床、消灯などは決まっていない③家での過ごし方などを聞いている④薬については、主治医へ話を聞いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①看護師が中心になり、薬の管理をおこなっている②薬効や副作用など薬の説明書を確認できるようファイルしている③服薬チェック表がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①利用前に本人や家族へ話をきいている②状態に応じて、提案をしている③全体での、レクも必要に応じておこなっている④行事計画を行い、外出も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	①買い物、受診など行っている②四季を感じるため、ドライブ（紅葉狩りや蓮の花や花見など）行っている③本人・家族と共に外出の機会を計画させて頂いている④外出について、話を聞いたり提案をしたり行っている。	利用者の希望は日常の会話を通じて把握に努め、利用者の健康状態や天候を見ながら、散歩や買い物・ドライブ・地域の行事や催し物・季節の花見など、外出が楽しみとなるように支援している。広い敷地には芝生も整備され、グランドゴルフや庭やテラスでのお茶会・食事・日光浴なども楽しんで頂いている。必要に応じてご家族とも連携して食事や温泉・外泊なども可能な限り援助できるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①利用前にお金について本人・家族に話を聞く②預かり依頼書の作成と記入を行っている③本人の必要に応じて、所持されている④必要に応じて本人が管理する部屋の施錠ができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	①利用の際には、電話連絡の確認を行っている②携帯の使用をしている方もいる③事業所の電話を利用して話したい相手と話している④手紙のやり取りをしている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①「音」「風」「光」にこだわった設計になっている。②季節の食材をテーブルの上に置く季節の花を飾るなど工夫している③外での食事ができる場所がある④匂いにも気をつけている⑤自由な外出ができる。	敷地は広く、木陰でのお茶や食事、手入れされた芝生のスペースではグランドゴルフも楽しめる。広々としたウッドデッキでもお茶や食事・会話・休息、また、ボランティアによる踊り・太鼓など多くのことに活用されている。リビングや廊下などの共用空間も、イスやテーブルも含めて利用者の安全確保や快適さのために多くの工夫がなされ、利用者個々のペースで気持ちよくくつろげるような環境づくりがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>①食堂やコモンスペース空間の利用は自由であるという雰囲気作りを行っている②利用者はそのときの状況に応じて思い思いに過ごされている③テーブルも人数にあわせて形を変えられる④隣には、小規模もある。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>①契約の際に、本人が過ごしやすい環境について話を聞く②必要に応じて提案させて頂く③馴染みの家具等を設置して頂く④自宅での生活状況の確認をする。</p>	<p>居室の環境づくりは大切と考え、本人や家族から過ごしやすい環境について十分に話をお聴きして、時には提案もしながら本人が落ち着いて生活できる居室になるように配慮している。利用者が使い慣れた家具や日用品等を自由に持ち込んで頂き、日常が本人のペースで居心地良く過ごせるような援助に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>①トイレ以外、どの部屋からも外へと出る事ができる②居室のアレンジは自由③ベットが備え付けてある④建物内部は、履物・素足どちらでも自由⑤時計がない⑥話をしたい時に、話を聞いてくれる人がいる。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない